

平成26年度 全国学力・学習状況調査の結果および考察

<国語A：主として知識>

《結果の概要》
○文脈に即して漢字を正しく書くことや読むこと、歴史的仮名遣いの理解など、言語についての知識・理解については、概ね良好な結果が得られました。
○必要に応じて質問し、足りない情報を引き出すことは相当数の生徒ができてはいたものの、まだまだ改善の余地がある状況でした。
○目的に沿って話し合い、互いの発言を検討して共通点や相違点を整理することに課題が見られました。
○領域では「書くこと」に関する問題はかなり良好な結果が得られたが、「話すこと・聞くこと」に関する問題には課題が見られた。問題形式では短答式の問題について課題が見られました。

《成果のあった問題》	8-1 文脈に即して漢字を正しく書く (地域の人をショウタイする)
	学校の平均正答率 77.6% 全国の平均正答率 57.6%
	無解答率 2.2% 全国の無解答率 12.3%
	2-1 心情が相手に伝わるように、描写を工夫して書き加える (主人公の気持ちの変化にふさわしい空の描写として適切なものを選択する)
学校の平均正答率 92.3% 全国の平均正答率 90.9%	
無解答率 0.5% 全国の無解答率 0.2%	

《課題のあった問題》	1-2 必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出す (報告の内容を踏まえた質問として適切なものを選択する)
	学校の平均正答率 73.8% 全国の平均正答率 80.3%
	無解答率 0.5% 全国の無解答率 0.2%
	6-2 話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす (話し合いの方向を捉えた司会の役割として適切なものを選択する)
学校の平均正答率 69.9% 全国の平均正答率 76.0%	
無解答率 0.5% 全国の無解答率 1.2%	

《今後の改善方向・取組み》
「話すこと・聞くこと」：聞き手の立場に立ち、表現の仕方を考える取組みの充実を図り、同時に、資料や機器を効果的に活用し、内容を的確に伝えるための工夫等を指導します。また、話し合いの際に、見通しや進行が適切であったかを振り返る時間を設定します。
「書くこと」：書く目的や意図を明確にし、自分の考えをまとめたり、文章を的確に要約する指導や新聞記事等を読み、着目点にそった感想をまとめるといった取組みを行います。
「読むこと」：登場人物の心情や行動に注意して読み、文章全体と部分との関係や例示と描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、内容を理解するよう指導をしていきます。
「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」：正しい漢字の読み書きがさらに定着するよう、漢字テスト等の指導を継続していきます。

<国語B：主として活用>

《結果の概要》	
○いずれの設問においても、良好な結果を得ることができましたが、課題も散見しています。	
○表現の技法については、相当数の生徒ができていました。	
○複数の資料から必要な情報を読み取ることは、相当数の生徒ができていました。	
○複数の資料を比較して読み、要旨を捉えることは、全体の3分の1の生徒しかできておらず課題が見られました。	
○資料から必要な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書くことは3割以下の生徒しかできておらず課題が見られました。	
○領域では「読むこと」に関する問題には課題が見られました。問題形式では記述式の問題について課題が見られました。	

《成果のあった問題》	1ー 表現の技法について理解する (標語に使用されている表現の技法として適切なものを選択する)			
	学校の平均正答率	72.7%	全国の平均正答率	65.3%
	無解答率	0%	全国の無解答率	0.3%
	2二 複数の資料から必要な情報を読み取る (本やインターネットの内容から答えを得られるものとして適切なものを選択する)			
学校の平均正答率	68.3%	全国の平均正答率	60.9%	
無解答率	0%	全国の無解答率	0.7%	

《課題のあった問題》	2ー 複数の資料を比較して読み、要旨を捉える (本とインターネットの内容を比較したときの説明として適切なものを選択する)			
	学校の平均正答率	32.2%	全国の平均正答率	31.4%
	無解答率	0%	全国の無解答率	0.6%
	2三 資料から必要な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く (水の中に浸すと、切手がきれいにはがすことができる理由を書く)			
	学校の平均正答率	28.4%	全国の平均正答率	28.4%
	無解答率	8.7%	全国の無解答率	18.0%

《今後の改善方向・取組み》	
「書くこと」：資料から必要な情報を得て、伝えたい事実や事柄を整理して明確に伝わるような表現ができるよう、目的や相手に応じて、取り上げる内容、それらが示す順番などを考え、よりよい文章にするように指導していきます。	
「読むこと」：複数の資料を比較して読み、要旨を捉え、必要な情報を正確に読み取るために目的に沿って資料の内容を整理したり、自分の言葉で言い換える指導をしていきます。	
「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」：言葉への関心を高めるため、辞書等を使い、使用頻度の低い漢字も積極的に調べさせる機会を意図的に設けます。また、具体的な活動の中で調べた語句が定着するように努めます。	

<数学A：主として知識>

《結果の概要》	
<p>○ほとんどの設問において、良好な結果が得られましたが、課題も散見しています。</p> <p>○すべて領域で、全国平均は上回っており、「数と式」や「図形」に関する問題では、概ね基礎的な知識・技能は定着していますが、「関数」に関する問題では、課題が見られました。</p> <p>○数量の大小関係を不等式で表すことに課題が見られました。</p> <p>○図形の回転、移動の前後における角の関係を読み取ることに課題が見られました。</p> <p>○関数の意味を理解すること、グラフと表を関連づけて反比例を理解すること、変化の割合を理解することに課題が見られました。</p>	

《成果のあった問題》	3 (2) 分数を含む一元一次方程式を解くことができる (一元一次方程式 $(X-1)/3=2$ を解く)			
	学校の平均正答率	80.3%	全国の平均正答率	59.5%
	無解答率	2.7%	全国の無解答率	12.4%
	5 (2) 平面図形を移動させたときの空間図形の構成について理解している (三角形をそれと垂直な方向に平行に動かしてできる立体の名称を選ぶ)			
	学校の平均正答率	94.5%	全国の平均正答率	84.8%
	無解答率	0%	全国の無解答率	0.5%

《課題のあった問題》	9 関数の意味を理解している (与えられた表を基に、「・・・は・・・の関数である」という形で表現する)			
	学校の平均正答率	38.3%	全国の平均正答率	35.8%
	無解答率	5.5%	全国の無解答率	17.5%
	11 (1) 一次関数の変化の割合の意味を理解している (変化の割合が2である一次関数の関係を表した式を選ぶ)			
	学校の平均正答率	43.7%	全国の平均正答率	47.3%
	無解答率	0%	全国の無解答率	1.8%

《今後の改善方向・取組み》	
<p>「数と式」：基礎計算プリントの反復練習を中心に、基礎計算力の定着指導を継続していきます。また、数量の大小関係を、文脈に沿って的確に捉えて表現することを重視した指導を行います。</p> <p>「図形」：あるきまりにしたがって移動する図形の動きを視覚的に捉え、図形の移動の性質を見出す活動を通して、基本的な図形についての理解を深める指導の充実を図ります。</p> <p>「関数」：様々な事象の考察を通して、関数の意味を理解し、関数の関係を見出す活動を行います。また、グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈し、解決方法について考え、説明する活動を充実させます。</p> <p>「資料の活用」：相対度数の必要性と意味を理解し、資料の傾向を読み取る指導をいたします。</p>	

<数学B：主として活用>

《結果の概要》
○すべて領域、すべての設問において、全国平均は上回っていますが、課題も散見しています。
○予想された事柄が成立しないことを判断し、その理由を説明することに課題が見られました。
○証明の過程で見出した事柄や証明された事柄を基に、発展的に考えることに課題が見られました。
○記述式問題は、特に確率を用いた理由の説明、グラフを用いた方法の説明に課題が見られました。
○図形の性質を証明することについて、構想を立てて証明することに課題が見られました。

《成果のあった問題》	1 (2) 空間における位置に関する情報を適切に読み取ることができる (外から校舎を見た図で、案内図に示された非常口の位置を選ぶ)
	学校の平均正答率 94.5% 全国の平均正答率 92.8% 無解答率 0% 全国の無解答率 0.4%
	6 (2) グラフの特徴を事象に即して解釈することができる (兄の速さを変えないとき、弟と兄の進む様子を表したグラフを選ぶ)
	学校の平均正答率 88.5% 全国の平均正答率 79.5% 無解答率 0.5% 全国の無解答率 2.5%

《課題のあった問題》	4 (2) 付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることができる ($\angle BAC = 110^\circ$, $BD = AD$ のとき、 $\angle DAE$ の大きさを求める)
	学校の平均正答率 28.4% 全国の平均正答率 23.3% 無解答率 10.4% 全国の無解答率 25.8%
	6 (3) グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題解決する方法を説明できる (兄の進む様子を表すグラフの両端2点を求め、そのグラフから兄の速さを求める方法を説明する)
	学校の平均正答率 33.9% 全国の平均正答率 29.9% 無解答率 10.4% 全国の無解答率 17.5%

《今後の改善方向・取組み》
「数と式」：具体的な事象の中に数量関係を見だし、その関係を文字式に表現したり式の意味を読み取る力を養うとともに、文字を用いた式の四則計算ができるよう指導していく。また、事柄が成り立つかどうかの判断に応じ、判断した理由を説明する活動の充実を図ります。
「図形」：証明の過程や結論を基に、発展的に考えることができるよう、与えられた性質を証明するだけでなく、条件を変えたり条件を付加したりして、新たな性質を見出す活動にも取り組んでいく。
「関数」：数量の関係を表、式、グラフを用いて数学的に表現したり、数学的な表現を事象に即して解釈したりすることができるように指導していきます。
「資料の活用」：不確定な事象の起こりやすさを判断し、その理由を説明する活動を指導していきます。

【生徒質問紙による学習状況調査の結果から】

○調査結果の全体の傾向

全国学力・学習状況調査結果の全国平均と比較すると、教科学力では、国語・数学のすべての領域において、本校の生徒はかなり力を持っており、なおかつ昨年より良好な結果になった。ただし、国語・数学あるいは総合的な学習における学習内容が、普段の生活や将来に役立つと回答した生徒の割合が全国平均よりも低い。

例年同様、規範意識が極めて高く、家庭での宿題の状況と併せて考えると、与えられた事や言われた事に真面目に取り組む実直な姿勢がうかがえる。反面、生活習慣の必要性に対する認識が十分でなく、昨年以上に「早寝・早起き・朝ご飯」に課題が見られた。

チャレンジ精神や達成感を持っている生徒は多いが、自己肯定感は相変わらず低調である。

○全国と比較して、本校の生徒の特徴として注目した項目について、その状況をお知らせいたします。

《(全国を上回る)本校生徒の良さ》		《課題として受け止めている事項》	
①	97%の生徒が、学校の規則を守っており、学校全体で規範意識が育っている。	①	自分にはよいところがあると思っている生徒が、例年同様、全国と比べて少ない。
②	95%の生徒が、いじめはどんなことがあってもいけないと考えており、人権意識は高い。	②	将来の夢や目標を持っている生徒が、例年同様、全国と比べて少ない。
③	95%の生徒が、物事を最後までやりとげてうれしかったという達成感を体験している。	③	読書が好き・読書をする・図書館を利用するという生徒が少ない。
④	8割近くの生徒が、先生は自分の良いところを認めてくれていると感じており、教師との関係は良好である。	④	国語や数学の授業内容がよく分かるという生徒が、全国と比べて少ない。
⑤	97%の生徒が、宿題を家でしており、提出物をきちんと出す習慣ができています。	⑤	国語や数学の学習が大切と思う生徒、将来役に立つと思う生徒が、全国と比べて少ない。
⑥	95%の生徒が、人の役に立つ人間になりたい、人の気持ちの分かる人間になりたいと考えている。	⑥	国語の授業で、考えを話したり、書いたり、発表を工夫したりする生徒が少ない。

〈考察〉

1. 授業に関して……教科学力は、国語・数学のすべての領域において、全国と比べて良好である。規範意識や宿題提出率が高いことからわかるように、大多数の生徒が真面目に学習活動に取り組むことが成果につながっていると考えられる。しかし、成果があがっているにもかかわらず、国語・数学とも、授業の内容がわかると答えている生徒の割合が全国に比べて少なくなっている。授業の中で、自分の考えを話したり、書いたり、発表を工夫したりする場面が少なく、授業内容が、プロセスより結果を重視する形に陥っているのではないか、そのために学習内容と日常生活・将来とがリンクしていないと感じてしまう生徒が多いのではないかと思われる。

授業のめあてを示すこと、しっかり振り返りを行うことも含めて、生徒が意欲的に参加し、主体的に活動できる授業への改善が必要であり、校内研修等を推し進める必要があると感じる。

2. 生徒の意識に関して……規則を守り、いじめはいけないと考え、人の気持ちがわかる、人の役に立つ人間になりたいという規範意識の強い生徒が多いことが、授業規律にもつながり、好結果をもたらしていると考えられる。

失敗を恐れず挑戦する気持ちやものごとを最後までやり遂げて嬉しかった経験など、チャレンジ精神や達成感を持っている生徒が多い。また、考えや意見を発表するのが得意で、考えを伝えることがうまく、聞くこともできる生徒も多い。にもかかわらず、自分にはよいところがあると思う生徒は少なく、自己肯定感は相変わらず低調である。また、夢や目標のある生徒も全国平均より少ない。何か問題を抱えたときに友達に相談する割合が全国に比べて低いことも併せて考えると、互いに認め合ったり、褒め合ったりすることが少ないのではないかと思われ、そのことが自己肯定感の低い原因の一つと考えられる。

3. 生活習慣・学習習慣……土日はもちろん平日でも、塾も含めた家庭学習時間が二時間以上という生徒が50%以上もあり、家庭学習の習慣ができている生徒は多い。ただ、約4分の3の生徒が塾に通っていることと、家で宿題をするという生徒が97%もいるという現実から考えると、家庭学習の習慣は宿題と塾に依存しているのが実情である。生徒が、主体的に学習する意欲が持てるような手立てを講じる必要がある。

「早寝・早起き・朝ご飯」に関する課題も依然としてある。平日、夜遅くまで、塾通いや携帯電話やスマートフォンでの友達とのやり取りをしている状況が、起床時間や朝食に影響を及ぼし、生活習慣が損なわれるという悪循環に陥っている生徒もいると考えられる。

4. 家庭・地域との連携……「早寝・早起き・朝ご飯」に関する課題解決には、家庭との連携が必要である。幸い、家の人と学校の出来事を話す生徒や家の人が学校行事に参加する家庭が多く、家庭でのコミュニケーション等は良好なので、より連携できるよう働きかけたい。ただ、一部の家庭で、コミュニケーション不足の状況があり、学力の二極化の一因にもなっていると考えられる。家庭との連携のため方策を工夫する必要がある。

地域行事に参加する生徒の割合や地域・社会への関心についても、全国傾向と同様、二極化の傾向にある。また、地域をよくするために何をすべきかと考える生徒は極めて少ない。地域の中で認められることは自尊意識や自己肯定感にも通じられるので、積極的な参加を促していく必要がある。同時に、地域や社会に関心を持つことができるような方策も講じる必要がある。

<調査結果を受けて>

○学校が重点的に取り組んでいくこと

1. これまでの取り組みの継続と発展について

チャイムと同時に授業を始め、日々の授業を大切にするという本校の伝統を受け継ぎ、生徒たちと一緒に楽しい授業をつくっていきます。

- ①少人数による習熟度別授業をさらに充実させ、生徒が主体となって互いに教え合ったり、説明したりできる授業づくりを進め、「やればできる」という達成感と「皆ががんばっているから自分もがんばろう」という連帯感を体験させ、主体的に学ぶ意欲を高めます。

- ②質問や疑問に対して、単に答を教えたり解説を加えるではなく、より具体的な解決の手だてを提示したり考えるヒントを提供することで、主体的に解決しようとする姿勢を育てます
- ③板書を書き写すだけでなく、自分の考えをノートに書くように指導することで、思考力や表現力を伸ばします。
- ④朝学習を活用した漢字テスト、補充プリントや読書、テスト前の質問教室で基礎学力の定着に努めます。
- ⑤学習支援チューター等に支援いただきながら、放課後学習会、放課後数学教室、長期休業中の補充授業などをいっそう充実させていきます。
- ⑥学習計画の作成、宿題や提出物の点検等をきめ細かく実施し、家庭学習の充実を図ります。
- ⑦「ほめること」「認めること」や「声かけ」を積極的に行い、生徒との信頼関係を強くすることで、授業規律と規範意識の維持・向上を図り、意欲的に学習に取り組める環境を整えます。

2. 授業力と子ども理解力のさらなる向上をめざして

- ①生徒が意欲・関心をもつような、わかりやすく楽しい授業、活気のある授業が展開できるように授業研究に努めます。
- ②授業のねらいを提示し、小テストや振り返りの時間を設定します。また、重要ポイントの示し方を揃えるなど可能な限りユニバーサルデザインを心がけます。
- ③生徒や保護者による授業評価を行い、今後の指導・授業改善に生かします。
- ④電子黒板・パソコンなどのICTを活用し、授業の工夫や改善に努めます。

○生徒のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと

- ①違いを認め合い、共に高め合う集団をつくろう。
- ②しっかりとあいさつをしよう。きちんと掃除に取り組もう。
- ③授業に集中し、積極的に参加しよう（考えよう、発言しよう、耳を傾けよう）。
- ④予習・復習などの準備をきちんとした上で、授業にのぞもう。
- ⑤学習内容を正しく理解するためにも、ノートにはていねいな文字を書こう。
- ⑥宿題や提出物を忘れず、期日までに提出しよう。
- ⑦本に親しみ、読書の習慣をつけよう。

○保護者のみなさまに協力していただきたいこと

- ①早寝早起き、朝ご飯、あいさつなど規則正しい生活を心がけるよう、ご指導ください。
- ②自尊意識や自己肯定感、意欲向上のため、よい面は積極的にほめるよう、お願いします。
- ③授業を大切にするため、宿題や提出物はきちんと出すよう、ご指導ください。
- ④授業の予習・復習など、家庭での学習習慣をつけるよう、ご指導ください。
- ⑤家族で会話する時間を大切に、可能な限り行事等への参加をお願いします。

本校の学力向上に関する取組み

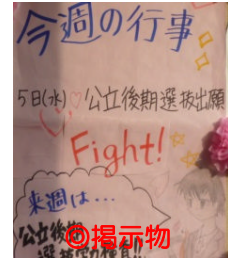
学力向上に必要な意識を高めるために

学力向上に何より必要なのは生徒の意欲であり、それを支えるのは集団としての生徒の団結、そして生徒と教師の信頼関係です。生徒の意欲を高めるためには、学校が、学年が、クラスが安心・安全な場所であることが大前提です。安心・安全な場所であり、互いに認め合い、支え合い、高め合う人間関係・信頼関係があってこそ学校生活に対する意欲が高まり、それが学力向上にも大きく影響していくと考えています。

狭山中では、規範意識を高め、団結力をつけ、コミュニケーション力を磨き、充実した人間関係や信頼関係を築くために、写真のような活動や取組みを大切にしています。



◎あいさつ運動



◎掲示物



◎学年集会



◎清掃活動



◎体育大会縦割り



◎修学旅行係会議



◎総合学習発表会

学力向上のために

生徒の意欲を形にし、学力向上を図るために、次のような取組みを行っています。

- ◎「ベル着」「課題や宿題の提出」について、丁寧に指導しています。
 - ◎数学、英語、国語では、少人数習熟度別指導を行っています。
 - ◎道徳：学校作成教材を数多く使って、各教科や行事と関連づけながら感性や人間性を磨いています。
 - ◎総合的な学習の時間：つきたい力と考え方の「習得(1年)」「定着(2年)」「活用(3年)」をめざした取組みを行っています。
 - ◎朝学活の時間には、漢字テストや英語・数学の基礎テスト、読書活動等に取り組んでいます。
 - ◎定期テスト前には、テスト前質問会を実施しています。
 - ◎大学生やボランティア等の学習支援チューターの方々の協力のもと、夏休みや放課後自習学習、放課後数学教室を実施しています。
 - ◎地域の専門家の方々や図書ボランティアさんに支援をいただき、学習指導や部活指導、読書指導の充実を図っています。
 - ◎生徒が意欲・関心をもつような、わかりやすく楽しい授業、活気のある授業が展開できるように、各教科で授業研究に努めています。
 - ◎授業のねらいを提示し、小テストや振り返りの時間を設定しています。
- また、重要ポイントの示し方を揃えるなどユニバーサルデザインを心がけています。
- ◎電子黒板・パソコンなどのICTを活用し、授業の工夫や改善に努めています。



◎数学研究授業



◎英語少人数授業



◎朝の漢字テスト



◎放課後学習会



◎ICTを活用した授業



◎図書館司書の方と